Urban Design Lab. Magazine

東京大学都市デザイン（西村・窪田）研究室
工学部都市工学科／工学系研究科都市工学専攻
http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

編集長　：大森 文彦
編集委員：石井 かおる　北川 貴巳　松本 綾
柏原 葉那　越村 高至　萩原 拓也　福士 薫

都市デザイン研マガジン vol.180　2012.10.10

伝建地区の“今”を見つめる　ー夏休み旅行レポートー

The travels to traditional architectures preservation districts

夏期休暇中、研究室のメンバーはそれぞれ、国内外の様々な場所へ旅行に出かけたようです。その中から、伝建地区を中心に回った、仲村・大森の両名からのレポートです。

ぶらり四国、伝建の旅。

M2 仲村 貴文

小生、良くも悪くもうだつが上がらない日々を送っておりますが、その「うだつが上がらない」という慣用句の由来ともなっている「うだつ」が見られる伝建地区、徳島県美馬市脇町へ夏真っ盛りの８月 16 日（木）に行って来ました。ここは、昭和 63 年に日本で 28 番目の伝建地区として選定され、東西に通じる 430m のメインの道は、日本の道百選にも選ばれています。うだつとは、１階屋根と２階屋根の間に張り出した小柱のことで、元々は防火のために隣家との境界に取り付けられていましたが、明治時代になると裕福な商家が自己の財力を示すために装飾として上げるようになりました。家によって様々な装飾のうだつが上がっており、各家が競い合いながらも全体的に裕福なエリアであったことが伺えます。うだつのほかにも、むしこ窓や格子造り、蔀戸など旧家ならではの建築風景が垣間見え、歩いていて飽きない町並みでありました。

▲うだつが上がっております

▲美馬市脇町・「うだつ」の町並み

故郷の財産を訪ねて

text_omori

▲まちなみ環境整備事業による福島のポケットパーク

▲町家交流館中庭で子供たちと遊ぶ塚本君

福岡に帰省中の９月 17 日 (月) に、UR で働く研究室 OB(2012 学部卒) の塚本くんと、福岡県南部 (筑後地方) の伝建地区を回りました。台風接近で鉄道もストップしている中、自動車でうきは市筑後吉井へ。筑後吉井は筑後川沿いの在郷町 (元は宿場町) で 1996 年に伝建地区となり、指定当初に比べ修景が進んでいます。次に訪れた八女福島は 2002 年に伝建地区となった商家町で、多くの入母屋造り家屋が残っており、格式高い街並みです。最後に訪れた八女市黒木は、母の故郷でもあるのですが、2006 年に指定された小規模な伝建地区で、矢部川上流に残る小さな在郷町です。どれも自動車がないと行きづらい場所にありますが、ぜひ多くの人に尋ねて欲しい地域の財産です。

全国まちづくり会議 in KOBE 参戦　ー鞆プロジェクトー

The national meeting of city planning 2012 in KOBE

— Tomo PJ —

先月、神戸で行われた日本都市計画家協会主催の全国まちづくり会議に鞆の浦 PJ チームが参加してきました。全国の専門家との熱い議論の様子を報告してもらいます。

text_kitagawa

９月 30 日（日）に神戸で行われた全国まちづくり会議に、窪田准教授、龍谷大学の阿部先生、鞆 PJ メンバー３名の計５名で参加してきました。この会議は、日本都市計画家協会という NPO 法人が年一度行なっているもので、全国のまちづくりのプロの方々が集い、用意された様々なテーマのセッションの中で議論を行うというものです。

今年に入って大きな動きがあった鞆の浦についても、専門家の方々から何か良い意見を頂けないかということで、この場を借りて議論を行うことになりました。住民が積極的にまちづくりに関わることができるシステムづくりや、生業と生活と観光の関係性の捉え方等の意見を頂き、鞆 PJ チームの活動の方向性と鞆のまちづくりのプロセスが上手く噛みあうような方法を引き続き模索していきたいと強く実感した一日となりました。

▲時間いっぱいまで議論が続きました！

好評連載

"留学生コーナー 第 20 弾！"

An Essay by International Student Vol.20

前編では韓国でのお仕事についてお話しいただいた李廷花研究員。後編は、日本で気になる町、研究者としての心構えについてお話し頂きます。

【東京の中で、私が好きな場所】

研究員　李 廷花

東京の中には魅力あふれるところがあちこちありますが、私の場合は浅草のように日本の雰囲気を感じられるところが一番好きです。もちろん、今の浅草も現代的に変わってきていますが、それだけでも都心でいろいろな日本の味わいを経験できるところだと考えています。

五月、浅草三社祭りへ行きましたが、まちなかで、「わっしょい、わっしょい」と勢いよくおみこしをかついでいる人たちのエネルギーあふれる光景は、外国人に対する観光的要素が大きくなっていて、特に地域の共同体意識を強めるという意義も少なくなっていると思いました。

韓国のソウル都心でもインサ洞と言う浅草のような場所は外国人観光客に一番人気があります。多くの外国人にその国ならではの何かを感じてほしいという思いは、まちづくりに関わる私たちにとって、心に刻みつけるべきことだと思います。

▲浅草の三社祭

▲ソウル・インサ洞のようす

秋の POPS 調査　―名古屋・札幌―

The POPS survey in Nagoya and Sapporo

9 月中旬に約 1 週間にわたり、名古屋・札幌の両都市において、公開空地調査を行いました。

Understanding Local Planning Cultures through POPS

Assistant-Prof. Christian DIMMER

Recently international discourses in urban planning theory have stressed the importance of 'intrinsic logics of cities', or 'local planning cultures.' These theories seek to address critical differences between cities rather than ignoring them. Central to these analyses is the question why and how exactly distinctly local geographies, actor networks, institutions, media debates, customs, traditions, climates, or histories influence the outcome of planning processes.The POPS project seeks to contribute to these international planning theory debates. Using one of Japan's most standardised planning tools —the Comprehensive Design System / 総合設計制度 — as indicator, we analyse which role local factors play in its application.

Nagoya, with its wide boulevards, large parks and complex urban structure is an ideal case study in this respect. Its urban structure is distinctly different from Fukuoka, Osaka, Kawasaki, Yokohama, Tokyo, or Sapporo —cities also part of this study.

▲ Socially inclusive_Homeless in Nagoya POPS

▲ Everybody invited to use this POPS

札幌の着実なアーバンデザイン

M1 児玉 千絵

札幌では、市内の都心部の公開空地から郊外の容積率緩和事例に至るまでひたすら訪ね歩いた他、市役所の方へのヒアリングを行いました。

これらを通して、市内の様々な場所で目指すべき空間像がある程度設定され、それに与する手法を吟味した上で総合設計制度を利用した単体開発や地区レベルの開発計画が行われており、市が既存制度を意識的に使い分けたり組み合わせたりしながら意味のある形で運用していることがわかりました。

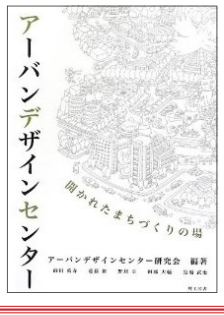
特に札幌～大通間地下道開通事業にあわせ、地区計画により地下道への接続や公開空地設置へのインセンティブを整え、市内の一等地ともいうべき地区が 1 つの都市像を目指して足並みを揃えている点が印象的で、都市計画ツールを巧みに使いこなしイニシアティブを取って都市再生を進める行政の技を実感するよい機会となりました。

▲フードコートのように使用される地下道接続部分の POPS

▲不適切な公開空地表示を見逃さない黒瀬助教

アーバンデザインセンター本、ついに出版！

黒瀬 武史 助教



前 UDCK 副センター長である芝工大の前田先生を中心に、都市デザイン研・歴代助教（遠藤・野原・阿部・黒瀬）が研究会幹事となり、取り纏めました。出口先生、窪田先生はじめ、柏・本郷の現役・OBOG 多数寄稿。かわいい表紙とは裏腹に、世界各地の事例も豊富で、読み応え抜群！著者割もありますので、希望者は 9F 大森まで。

information

10 月の予定

11 日	建築文化週間　建築夜学校 2012 「21 世紀の首都」
12 日～ 14 日	佐原 PJ　大祭での展示
19 日	研究室会議

編集後記

萩原 拓也

先日、清水 PJ の現地調査からの帰り、黒瀬助教・大森編集長と男三人で、今話題の保存復原された東京駅丸の内駅舎を見に行ってきました。ライトアップの終了した 23 時過ぎだったにも関わらず、多くの人が足を止めて携帯電話のカメラを構える様子に、関心の高さが伺えました。我々はというと、よりよい観察点を求め、新丸ビルのテラスにのぼり、「ハナ金」の華やかな雰囲気に飲み込まれそうになりながらも、新しい駅舎の全景を写真に収め、各々そそくさと帰路につきました。